

2023. 春号

木更津市消防団だより



matoi



Contents

活動報告

豆知識



女の子だって
消防団になれる！

発行元
木更津市消防団
TEL 22-0119
(警防課)
2023年3月発行
VOL.36



木更津市
ホームページ
消防団だよりへ

早出し放水 競技大会



令和4年11月20日(日)旧木更津市役所敷地内にて早出し放水競技大会を開催しました。今大会は新型コロナウイルス感染症の流行により4年ぶりの開催となりましたが、各部とも訓練の成果を十分に発揮し、久しぶりの大会であることを感じさせない素晴らしい演技を見せてくれました。

大会の結果

- 《ポンプ車の部》
- ▽優 勝 1分団2部(太田・請西)
- ▽準優勝 4分団3部(久津間)
- 《小型ポンプの部》
- ▽優 勝 4分団7部(旧高柳・旧住吉町)
- ▽準優勝 4分団2部(江川)
- ▽第3位 1分団1部(中央)
- ▽第4位 4分団4部(万石)
- ▽第5位 7分団2部(伏日寺・市場)
- ▽第6位 4分団6部(西山)

優勝チーム紹介

《ポンプ車の部》1分団2部

(太田・請西)

- 指揮者 団員 伊藤 啓司
- 1番員 団員 于 任煒
- 2番員 団員 野寄 良市
- 3番員 団員 岩田 数也
- 4番員 班長 島田 剛

部長コメント 宮島 千尋

コロナ禍で大会はおろか訓練すらできない期間が続き、この間に入団した団員は機材の取扱いを全く学べずにいました。状況が改善した今年は、火災現場での活動に支障がないよう夏前から訓練を始め、その甲斐あって早出し大会本番でも各員が的確に操作することができました。地域の皆さんにも十数年ぶりの優勝を報告でき、大変嬉しく思います。



《小型ポンプの部》4分団7部

(旧高柳・旧住吉町)

- 指揮者 部長 高橋 浩平
- 1番員 団員 青木 祥
- 2番員 班長 森田 大介
- 3番員 班長 重城 善之

部長コメント 高橋 浩平

今大会は、大会経験初となる3名を入れたメンバー構成で本大会に臨みました。消防団OBや諸先輩方より、優しくも熱心なご指導を受けて練習に励んだことで、『優勝』という最高の結果を出すことができました。今後も、このチームワークを活かして、地域防災の安全・安心に貢献できるようにしたいです！今大会においてサポート頂きました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



資機材訓練

消防団活動に係る機材の取扱い技術の向上を図るため、2分団ずつ4回に分けて資機材取扱訓練を実施しました。訓練では、チェーンソーやエンジンカッター、ストライカーなどの各機材の取扱い方法や、簡易担架の作成・搬送方法を学びました。



普通救命講習

家族や市民等、急病人の命を守る知識や技術の習得を図るため、普通救命講習を実施しました。訓練では、心肺蘇生法やAEDの取扱い方法を学びました。



消防出初式

木更津市消防出初式が令和5年1月22日（日）旧市役所敷地内で行われました。木更津市の出初式は、令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染症の拡大により実施を見送ってききましたが、経済・社会活動の再開等を踏まえ、3年ぶりに開催する運びとなりました。



出初式は、消防団員や各種消防車両等の行進から始まり、式典では功績のあった消防団員や、日ごろ家庭で団員を支えて頂いている方への内助の功などの表彰が行われました。



消防広場では、はしご車搭乗体験等催しにより、来場した子ども達も大喜びでした。また、チーバくん、きさポンなどのマスコットキャラクターも場を盛り上げました。



出初式最大の見せ場は、千葉市・川崎市両消防局の消防ヘリコプターや千葉アクア生コンクリート共同組合の協力を得て実施された消防職員・団員による総合連携訓練であり、実際の災害現場を想定した訓練は、大変な緊張感と迫力がありました。



令和5年2月19日（日）木更津市消防本部と木更津市消防団による春季消防演習が行われました。



この演習は、激甚化及び多発化する災害に対処するため、消防団災害マニュアル等に基づき、消防団員の参集訓練、情報伝達訓練及び大規模火災対応訓練を実施し、実災害活動を検証するとともに、相互の連携強化、土気高揚を図ることを目的としています。

同日は寒空の下、市内3カ所【旧市役所駐車場】【公設地方卸売市場】【矢那川ダム】で訓練を実施しました。各訓練会場では漏電が原因の火災消火を想定した中継・放水訓練、河川の増水・氾濫を想定した土嚢作成及び設置の訓練を実施しました。

今後も地域の安心・安全を守る消防団活動が行えるよう訓練を重ねてまいります。



住宅用火災報知器の設置状況と

適切な維持管理について

●住宅用火災報知器の設置状況

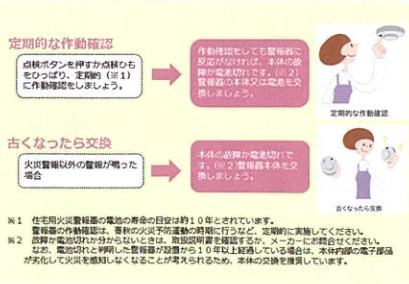
住宅への火災報知器の設置については、2006年（平成18年）6月に新築住宅への設置が義務化され、2011年（平成23年）以降、既存住宅への設置が義務化されました。

●住宅用火災報知器の効果

総務省消防庁の統計データでは令和元年度中の総出火件数37,683件のうち、住宅火災が約3割の10,784件となっています。また、死者数では全体の約7割に当たる1,000名の方が住宅火災で亡くられています。

住宅用火災報知器の設置効果については、平成29年度から令和元年度までの3年間に

住宅用火災報知器の維持管理について



通電火災対策

について

近年、台風や地震などの自然災害により、大規模かつ長時間に及ぶ停電が発生しており、停電からの復旧後の再通電時に火災が、いわゆる「通電火災」の発生が懸念されています。

阪神・淡路大震災や東日本

大震災の被害状況から、通電火災は、特に、地震による停電が発生した際に危惧されていますが、台風による長時間の停電復旧後に、通電火災と疑われる火災が発生し、地震発生時だけでなく、台風などの風水害発生時においても対策が必要となります。

また、自然災害の発生に伴う停電から時間が経過した後、復旧時に発生した場合、住民が避難所等へ避難しており、出火時の初期消火が行えないといったおそれがあります。

【通電火災の主な原因】

地震発生時

- ・ 損傷した配線などに再通電し、発熱発火する。
- ・ 転倒したヒーターに可燃物（カーテン、じゅうたん等）

が、接触した状態で再通電し着火する。

- ・ 再通電時に発生した電氣的火花が、漏れ出たガスに引火、爆発する。

風水害発生時

- ・ 浸水や雨漏りによる、電化製品の基板等の損傷により、再通電時にショートが生じ発火する。
- ・ コンセントに水分が付着し、再通電時にトラッキングが生じ発火する。

【出火防止対策】

停電発生時

- ・ 停電中は電気機器のスイッチを切るとともに、電源プラグをコンセントから抜く。
- ・ 停電中に自宅から離れる際はブレーカーを落とす。

通電再開時

- ・ 給電が再開されたら、浸水などにより電化製品が破損していないか、配線やコードが損傷していないか、燃えやすいものが近くにないかなど、十分に安全を確認してから電化製品を使用する。

- ・ 建物や電化製品等には外見上の損傷がなくとも、壁内の配線の損傷や電化製品内部の故障により、再通電後、長時間経過したのち火災に至ることがあるため、煙の発生などの異常を発見した際は直ちにブレーカーを落とし、消防機関に連絡する。

日頃からの備え

- ・ 漏電ブレーカーや、配線の損傷や短絡を検出し電気を自動で遮断するコード短絡保護機能が内蔵された住宅用分電盤を設置する。
- ・ 地震発生時に設定値以上の揺れを感知した時にブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める感震ブレーカーを設置する。

このほか、日常使用している暖房器具については、対震自動消火装置や転倒OFFスイッチなどの安全装置付きのものを使用することや、地震時に可燃物の落下や転倒を防止するため、居室内の整理整頓、家具等の転倒防止を行うことも出火防止には有効です。